

AAFC 2023 10/22

日本の作曲家 (2)

清水俊一

20年前AAFCに入会して最初の当番で「日本の作曲家 (1)」とぶち上げたまま、名録音、平面スピーカー、指揮者、映像関係とか手当たり次第、脱線して放置して参りました。言わば20年越しの続編です。今回は10名の作曲家を取り上げます。

伊福部昭は高校時代、都立日比谷図書館のレコード貸出を利用して最初に意識した作曲家です。当時はゴジラ映画音楽を担当していたとは存じませんでした。その萌芽らしきものも聞こえて参ります。

山田和男は1943年初演を指揮、伊福部昭死去の直後に例会で取り上げた際には広上淳一のBIS盤を使いましたが、本盤にはより熱気に溢れているように感じます。

1.伊福部 昭： 交響譚詩(1943年)

第一譚詩 (Allegro capriccioso)

第二譚詩 (Andante rapsodico)

山田和男: 東京交響楽団 CZ30-9017 録音: 1962年6月

黛敏郎は伊福部昭門下、戦時中、日光に疎開していた伊福部の元を黛敏郎らの弟子たちが度々訪れていたそうです。この「文楽」という曲、8年前、日光市の小杉放庵美術館で行われたチェリスト横坂源のリサイタル(聴衆60名)ではじめて聴いて印象に残った曲です。

2.黛敏郎：無伴奏チェロのための『BUNRAKU文楽』

林 峰男 (チェロ) 録音: 1990年 仏PAVANE Recods輸入盤 ADW 7221

三枝成彰から坂本龍一までの6名はNHK大河ドラマのテーマ曲を作曲しています。名前の後の数字はその回数。2分45秒というフォーマットの中にドラマの序曲としての要素と作曲家の個性技倆を盛り込んだ強い印象を残す名曲揃いです。

	以下	タイトル	放映年次	主人公	主演者
3.三枝成彰 (2)	花の乱	1994年 (平成6年)	日野富子	三田佳子	
	大友直人指揮	NHK交響楽団	福田直樹 (ピアノ)	BVCF-1534	
4.湯浅譲二 (4)	徳川慶喜	1998年 (平成10年)	徳川慶喜	本木雅弘	
	岩城宏之指揮	NHK交響楽団		POCF-1005	
5.池辺晋一郎 (4)	元禄繚乱	1999年 (平成11年)	大石内蔵助	5代目中村勘九郎	
	秋山和慶指揮	NHK交響楽団		VICG-60220	
6.岩代太郎 (2)	葵 徳川三代	2000年 (平成12年)	徳川家康	津川雅彦	
	シャルル・デュトワ指揮	NHK交響楽団	小山実稚恵 (ピアノ)	SRCR-2505	

- 7.千住明 (1) 風林火山 2007年 (平成19年) 山本勘助 内野聖陽
TOCT-26185
ドラマ人間模様「バブル」* 2001年 (平成13年) 渡瀬恒彦他 ESCB2203
Song for the Life(Main theme of Bubble)1:32
- 8.坂本龍一 (1) 八重の桜 2013年 (平成25年) 新島八重 綾瀬はるか
尾高忠明指揮 NHK交響楽団
戦場のメリークリスマス(4:00) 岡城千歳 (ピアノ) KKCC-4330
AMOROSSO 5:27 Kristina & Laura
enagy flow 4:24 Kristina & Laura
aqua 4:45 Kristina & Laura PCCL-00527
- 9.加古隆 黄昏のワルツ (2000年) 3:23 SICC-10001
パリは燃えているか (1995年) 5:13
ダグラス・ポストック指揮 スロヴァキア・フィルハーモニー
- 10.久石譲 「風の谷のナウシカ」より
風の伝説 3:02 レクイエム 1:52
遠い日々 4:18 谷への道 3:07
藤原真理 (チェロ) 30CO-2302
鳥の人 3:53 TOCT-6675

* 1980年代後半、バブル景気の大阪を駆け抜けた男女の生き様を描く社会派ドラマ。とかくバブル時代を扱うドラマや映画は、ワンレン・ボディコンやジュリアナ現象などの流行や風俗を面白おかしく扱った物が多い。それに対して本作品は「バブル時代の総括」をテーマに、時代の雰囲気や人々の生きざま、バブルの錬金術の手口などをリアルかつシリアスに描いた珍しい作品である。